

大助祭

おおすけまつり

鹿島神社

那珂市菅谷にある神社。大助祭の最後には、境内に全ての山車が集まり盛大に盛り上がる。

那珂市立菅谷小学校の近くにある鹿島神社は、鹿島神宮の神様を分けてできた神社です。昔、一度なくなってしまうましたが、村の人達の「もう一度建ててほしい」という願いから、一八五五年に今の那珂市菅谷地区に再び建てられました。とても昔からある神社です。



山車^{だし}

お祭りの時にお
囃子^{はやし}をえんそう
する人を乗せて
移動^{いどう}する飾り^{かざり}の
ついた出し物。

大助囃子^{おおすけばやし}

江戸時代末期

(一八五七年)

以来、大助祭に
山車^{やまぐるま}の上で勇壮^{ゆうそう}
に演じられたお
はやし。保存会
によって保存と
伝承^{でんしょう}が図^ずられて
いる。

鹿島神社では、大助祭という三年に一度、開かれるお祭りがあります。たくさんのお祭りのちようちんを下げた山車^{だし}や、五メートルの竹に七つのちようちんをつけた「七つぼんぼり」が町内をねり歩きます。山車の上には笛、小太鼓^{こだいこ}、大太鼓^{おだいこ}を演奏^{えんそう}する人が上がり、大助囃子^{おおすけばやし}を演奏^{えんそう}します。小太鼓は小・中学生が演奏^{えんそう}します。

私が小学校三年生のころ、大助祭が開かれました。

「うわあ、かっこいい。私も山車の上に乗って、太鼓^{たいこ}をたたいてみたい。」

四・五・六年生が一生けん命演奏している姿がとてもかっこよく見えました。「私も大きくなったら、太鼓をたたきたい」そう心に決めました。

三年後、小学校六年生になり、山車の上に乗ることができる学年になりました。「いよいよ太鼓を演奏できるぞ。」

地区の集まりで、私は太鼓をたたく役に真っ先に手を挙げました。

八月になり、太鼓の練習が始まりました。伝承^{でんしやう}音楽という練習方法です。

地元で育った方々が演奏する横笛に合わせて、見よう見まねで覚えていきます。楽譜^{がくふ}や決まった練習方法はありません。長い間伝えられてきた練習方法です。高校生やご年配の方々に見てもらいながら、私は一生けん命練習しました。

お祭りの前日には、地区の方々と山車の組み立てと、かざり付けをし



ました。この日、山車の上で初めて演奏しました。とてもわくわくしました。演奏しない子ども達は山車を引っ張って動かします。地区の方々全員が、明日のお祭りのために、準備をしていきます。

「ピーヒョロー」「ドン。ドドドン。」

お祭りの日。たぐさんの地区の方々と、一日中いっしょに過ごしました。私は、山車の上で一生けん命演奏しました。あつという間に時間は過ぎていきました。

お祭りの最後は、九つの地区の全ての山車が鹿島神社に集まって、いっせいに大助囃子を演奏します。神社に集まった人達の気持ちが一つになったように感じました。

「一生けん命、太鼓をたたけた。けど、それよりも…。」

いつの間にか、大助祭に参加する私の心は、三年前とは、大きく違うものになっていました。太鼓をたたけたこととはまた別な、満足感でいっぱいになっていたのです。

大助祭の太鼓をたたきたいという、おさないころの夢はかないました。三年後、私は中学三年生になります。次の大助祭には、これまでとは違った気持ちで参加できるような気がしました。

大助祭

現在は三年に一度の八月十五日に行われ、「菅谷のちようちん祭」や「大助祭」とよばれています。数百ものちようちんをぶら下げた各地区九台の山車の繰り込みとご神刀による火切り神事などが最大の見どころとなっています。